



ふしきの地で 万葉びとの心にふれよう！

本校の正面玄関にステンドグラス風の絵画が設置されています。生徒のみなさんは見たことありますか？これは平成26年度に富山大学・ペルトネン純子先生のご指導のもとで卒業記念として制作されたものです。その絵画のなかに万葉歌人・大伴家持の歌があります。

もののふの ^{やそをとめ} 八十娘子らが ^く 汲みまがふ

^{てらい} 寺井の上の ^{かたかご} 堅香子の花 (万葉集巻19・4143)

◆万葉の和歌とカタクリの謎

奈良時代、水をくむのは女性の仕事でした。大勢の娘子たちが入り乱れて賑やかに水をくんでいて、その井戸のほとりに堅香子（かたかご）の花がたくさん咲いている。明るく作業する娘子たちと可憐な花の情景が目に見えそうです。この堅香子の花は、ユリ科のカタクリと考えられています。現存する日本最古の和歌集の「万葉集」には4350首以上の歌が収められていますが、その中で堅香子が歌われたのは、じつは大伴家持のこの一首だけなのです。なぜでしょうか？カタクリという花について調べてみたらその謎がわかるかもしれませんよ。ちなみにカタクリは平成7（1995）年に高岡市の「市の花」になっています。

◆カタクリの花を見に行こう！

本物のカタクリの花を見たことがありますか？この花は紅紫色の可愛らしい美しい花です。早春に咲くので残念ですが、この時期（5月）にはもう見られません。伏木高校の近くで見られる場所としては氣多神社、高岡市万葉歴史館、勝興寺横の寺井の井戸跡などがあります。寺井の井戸跡は家持が訪れた井戸と推定されている場所です。ロマンがありますね。また高岡市水道つつじ公園はカタクリの群生地として有名。春休みにぜひ訪れてみてください。本物を見て、感じる事が大切です。

美しい花を愛する「こころ」は、日本人だけでなく世界の人びと共通なのではないでしょうか？国際交流のときに「伏木にこんな可愛い花があるよ！」と教えてあげたら、友好校の高校生に喜んでもらえると思います。そして海外の美しい花を、私たちにも教えてもらいたいですね！



正面玄関でカタクリを栽培しています。開花はまだ数年かかると思います。



寺井の井戸跡（伏木古国府）